

令和4年度第2回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 令和4年11月17日(木) 午後3時30分～午後5時00分
- 場 所 伊勢市役所本庁舎東館4階 4-3会議室
- 出席委員 中條、花田、田口、濱口(美)、松葉、岩崎、濱口(恵)、山本、竹中、
下野、奥村、北川、森田、宮崎、中川、前田(弓)、前田(晃)
- 事務局 健康福祉部
- ・参事 岩佐
 - ・子育て応援課 副参事 坂本、子育て応援係長 西川、
こども育成係長 福田、山本
 - ・保育課 課長 堀川、課長補佐 濱地、運営係長 森田、
保育係長 奥本
 - ・健康課 課長 浦田、母子保健係長 北口
 - ・生活支援課 課長 濱口
 - ・こども発達支援室 発達支援係長 西村
- 教育委員会事務局
- ・教育総務課 課長 前村、中井
 - ・学校教育課 指導主事 浅井
 - ・社会教育課 課長 沖塚

議 題

- (1) 第2期伊勢市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
- (2) 次期「伊勢市の就学前の子どもの教育・保育に関する施設整備計画」等の策定
方法等の変更について
- (3) その他

・事務局より開会挨拶、委員・事務局紹介、資料確認

【事務局より】

議題（1）について説明（資料1、資料1-1、資料1-2）

（「●」は委員意見、「(委)」は意見に関する委員の意見、「→」は事務局回答を表す）

- 人口減少が進む中、伊勢に人が集まる施策を検討されているか。
→子どもだけでなく若い人からが対象になってくる話。令和5年度からは、駅前の福祉拠点施設で相談体制を整えたり、今までにない形の子育て支援センターを開設するので、子育て世代に来てほしい。

- 令和5年、6年の「実績」の欄に数字が入っている。まだ終わっていないのに、どういふことか。
→青は実績値、赤は実績に基づく推計値を入れている。

- ショートステイが計画に対し高い実績。申し込みに来た方は全員利用できているか。
→できている。

- 出生率は。もっと子どもが生きやすい環境づくりの施策を。
→資料における0歳児人口の推計については、出生率は加味しておらず、1～2歳の傾きを加味している。

- 観光地として人気だが、観光に終わらせず居住してもらうことで人口が増える施策を。
(委) 次期計画策定に向けて議論すべき課題である。

- 病児保育について、「他人に見てもらうのは不安」という声があるとのこと。共働きの増加によりニーズは高いと思われるが、不安な声が多いので増加は想定しにくいという考え方はどうなのか。
→課題解決に向け、委託業者とも話し合いをしていく。
他市だと施設によって病児だけ、病後児だけというところがある。伊勢市では病児と病後児の両方を預かれるので、そういった良さを周知したい。
(委) 病児保育の事業者はしっかり対応している。祖父母に預ける人も多く、不安な人は預けなくてもよいと考える。

(委) 市として、不安という声に対し向き合い、安心して預けてもらうよう考えていく必要があると思う。

(委) アンケートで具体的に「何が不安か」を回答してもらってはどうか。

(委) 不安な人が多いから数字を減らすというのはおかしいので、もう一段階、何が不安か聞いて、市として対策してほしい。それでも不安を感じるなら仕方ない。

【事務局より】

議題(2)について説明(資料2)

- 支援事業計画と施設設備計画について、どちらも子ども・子育てに関するものであるから一体的にとらえて、全体として子ども・子育ての計画を立てるという趣旨か。また、支援事業計画期間は5年で中間年に見直しを行うが、施設設備計画はどうか。

→ 趣旨はそのとおり。施設設備計画の見直しについては、2～3年では大きな変化はないかと思われる。もし大きな変化があれば見直すが、基本的には5年サイクルで、次の5年間の予定を見直していくと考えている。

- 就学前の子どもに関する施設とは例えばどのようなものがあるか。

→ 公立の保育所・幼稚園・認定こども園。

- 人口減少・少子化といわれる中でも、市内全体を見ると増減の状況はばらつきがある。現在、待機児童はないが、希望の保育所に入れられない保護者がいる反面、人数に余裕のある保育所もある。私立も老朽化が進み、統合も検討するが私立同士だと難しいところがある。ついでに、行政が統合に適した位置に建物を建て、運営は現在の保育士に任せるなどで一元化してはどうか。行政が入ると保護者も安心感を得られ、新しい良い園ができると、入所の希望も分散されると考える。

→ 行政が建てるとなると財源という課題がある。地域のニーズをしっかりと把握しながら、私立の統合に行政がどこまで入っていけるか検討していきたい。

(委) ハードルは高いが、ひとつのモデルケースになる可能性はあるので検討する余地がある。ただし、園に対する地域が広がってしまう可能性があるので、ニーズの把握は大切。保育士の確保が問題となっている今、保育士を抛出して1つの園に配置するのは一つの手かもしれない。

- どういう子どもに育てたいかという市の思いがあつてこそ、施設や地域性に対し必要な

支援を考えることができる。子育てする親の「仕事したい」「預けたい」の方を汲んでいるのでは。子どもの視点を持ってほしい。

●令和4年度の策定スケジュールについて、変更前は「アンケート実施」であったものが、変更後は「庁内会議において検討」となっている。アンケートを外した理由は？

→R4に整備計画のアンケート調査を予定していたが、子ども・子育て支援事業計画策定に向けた大規模なアンケート調査をR5に実施するので、同じタイミングで実施しようと考えた。一度ですることによって費用も抑えられる。

(委) アンケート内容に重複があるということか。

→アンケートをお願いする対象者が同じなので、重複する可能性もある。

(委) 一度でということだが、アンケート調査で課題や問題を掘り出したうえで事業計画を検討し、それについて再度アンケート調査を行うという積み重ねが必要。ニーズにあっていない検討結果では意味がなく、また、出来上がったものにしかアンケートをとらないというのは押し付けでしかない。アンケート調査は何回でも行ってよいと思う。市や事業者と保護者の目線は全然ちがうので、R4でアンケート調査を行ってほしい。

→変更後のスケジュールについても、R5にアンケート調査を実施するが、その前段階で現計画の評価検証や足りない視点の検討を行ったうえで、アンケート調査に盛り込みたいと考えているので、そのあたりのニーズは踏まえたうえでアンケート調査を行えると考えている。

(委) そのような考えであれば「1回で済む」というような発言はしない方がよいと思う。

●非常に合理的な変更案だと思う。もともと10年だった計画を5年にすることのメリットを教えてほしい。

→5年にすることで、より精度の高い予定を示していける。

●スケジュールの変更について承認

【会長より】

その他（人口減における子育て支援施策、人口・出生率・移住者増への取り組みなどについて意見交換）

●他市の事例では、開放感ある広い公園や大型ショッピングセンターの設置がある。近隣市町でもいい例があると聞くので、成果があった事例などを情報共有してほしい。

小学校へ入学後の学力が保育園によって異なる話を聞く。保育士による差をなくすよう、市が今より充実した教育研修プログラムを作り実践してほしい。

●子どもも大人も本を読むことが大切。図書館の充実もそうだが、本がどの地域の保育所
にあり、心が弱ったときなどにみんなが行けるような場所があるとよい。

●転出を減らすことが大切。子どもが伊勢に誇りを持てるように。また、伊勢に住もうと
したときの基盤が整っていることも重要。市が支援施策を整え、それを市民が認知して
いないと進まない。

(委) 本会議で計画を立てても、市民にどこまで認知されているかわからない。

(委) 移住を考えても職場と住居がないと住めない。大企業が来ることもなくなってきた
ので、一次産業に相当力を入れていく必要があるのでは。また、空き家を改装して住め
るようにするなど整備しないと。

(委) 転出の原因はおそらく仕事上の問題。世界祝祭博覧会の跡地を企業誘致するという
いい機会も、市内の企業が移転ただけで、雇用創出にも結び付いていない。

(委) 他の部署とも連携して、市全体で考えていくべき課題。

●子育てするには伊勢市が良いと自慢できることを教えてほしい。・・・回答がないのは、
他市を調査していないということ。行政がまずはここがいいよと言えるよう意識を高め
ていくべき。雇用の促進は、フリーランスに注目してはどうか。

→クリエイターズ・ワーケーション促進事業という、アーティストに市内に連泊ながら
活動していただく取り組みを行っている。保育園でも、子どもの絵を描かれる方に来て
もらった。今後も観光・文化とも連携していきたい。

(委) 会社に行かなくても仕事ができる時代になったので、Wi-Fi環境の提供など、そうい
うことを細々と続けていくことが大切。

●本が身近にある環境が大事。ある書籍でお葬式のまかないを作っている様子を、お母さ
んを煮ていると考えた児童がいるとの報告がされている。本を通じて疑似体験させるこ
とで、私たちでいう一般常識を身に付ける場を作りたい。

【事務局より】

次回開催予定、議事録公開の説明